

1 水稻生育状況（8月1日現在 普及センター調査ほ）

品種	区分	草丈 (cm)	葉数 (葉)	茎数 (本/m ²)	平年比 (日)	備 考
ななつぼし	R7年	93.4	10.8	578.5	+9	出穂期 7/20 (平年 7/28)
	平年値	88.0	10.7	525.7		
	差	5.4	0.1	52.8		
ゆめぴりか	R7年	95.0	11.0	560.6	+6	出穂期 7/19 (平年 7/24)
	平年値	87.3	10.9	597.2		
	差	7.7	0.1	-36.6		

- (1) 生育状況について
生育の遅速は、高温の影響を受けて平年より早く推移しています。
- (2) 土壌水分の確保
開花後、登熟初期（開花～20日間）は、籾の中で子房が急速に大きくなるため、水分が必要です。ほ場にひび割れが発生しないよう、土壌水分の維持に努めましょう。
なお、登熟初中期に高温（最高29℃、最低23℃以上）が5日以上続くと予想された場合は、間断かんがいをを行い、水田地温を下げて乳白・腹白粒などの発生を防ぎましょう。但し小雨が続く場合は湛水状態を維持しましょう。
- (3) 病虫害防除対応
高温のため、アカヒゲホソミドリカスミカメの加害が活発化する恐れがあります。北海道病虫害防除所によると、発生量は「多」と予想されています。基幹防除を実施するとともに、発生状況を確認し、追加防除を検討・実施しましょう。
- (4) 落水時期と落水後の水管理
落水の目安は「穂かがみ期（出穂25日後頃）」以降です。水田が乾燥する場合は、土壌水分の確保に努めましょう。

2 畑 作

- (1) 麦類 【小麦後作緑肥の導入】
地力の維持・向上のため導入を検討しましょう。緑肥の生育量を十分に確保するため、小麦収穫後早めには種を行いましょう。
(例：「えん麦野生種」、は種時期 8月上旬～中旬、は種量10～15kg/10a、窒素施肥量 5 kg/10a)
- (2) ばれいしょ 【疫病、軟腐病】
○疫 病：罹病茎葉で作られた胞子が塊茎感染のもとになるため、塊茎腐敗に効果のある薬剤で防除を徹底し、塊茎腐敗の発生を防ぎましょう。
○軟腐病：高温多湿で経過していることから防除の徹底を心がけましょう。
- (3) 大豆 【マメシンクイガ】
多くのほ場で莢の伸長が始まっています。防除は、成虫の飛来が確認され、莢伸長始め（約半数の株に2～3cmに達した莢が見られる）の両方が認められてから6日後頃に1回目（合成ピレスロイド剤）、その10日後に2回目（有機リン剤）を実施しましょう。
- (4) 小豆 【アズキノメイガ、マメノメイガ、灰色かび病、菌核病】
○アズキノメイガ、マメノメイガ：7月下旬～8月上旬頃に1回目、発生が多いほ場では1回目の7～10日後に2回目を実施しましょう。
○灰色かび病、菌核病：開花後に発生しやすくなるため、開花始後7～10日目に1回目、その後10日おきに1～2回防除しましょう。

3 主要野菜の生育状況

作物名	生育状況	技術対策
トマト	3月定植：7～8段目収穫 4月定植：7段目収穫 5月定植：3～4段目収穫 6月定植：1～2段目収穫。 ＜病害虫・障害＞ ・灰色かび病、すすかび病、アザミウマ類、トマトキバガ、黄変果の発生が見られる	・ベット内側の葉や老化葉を中心に摘葉を行い風通しを良くする ・定期的な薬剤防除を行う ・ハウス内外の雑草を除去する ・遮光・遮熱資材の利用、ハウスの換気、リーフカバーにより黄変果の発生を防ぐ
ハウス軟白ねぎ	・4月定植収穫中 ・アザミウマ類が多発している	＜アザミウマ類防除＞ ・ハウス内外の除草に努め、飛び込みを防ぐ ・ローテーション防除に努める ・散布量を多めにし、十分薬剤が行き渡るようにする
アスパラガス (ハウス立茎)	・夏芽収穫中 ・一部でジュウシホシクビナガハムシの発生が見られる	・ハウス周辺の除草に努め、害虫の飛び込みを防ぐ
かぼちゃ	・1番果収穫始	・黒斑病、うどんこ病の防除を行う
いちご	・収穫中	・弱小腋芽、古葉、ランナー、不要な花房の摘除、奇形果など摘果を早めに行い果実肥大の充実を図る ・害虫防除を定期的に行う

4 飼料作物生育状況（8月1日現在 普及センター調査ほ）

作物名	生育状況				生育期節	備考
	項目	R7年	平年	平年比	絹糸抽出期	
牧草(2番)	草丈(cm)	55.1	53.0	+2	7/22 (平年7/29)	生育は平年並
飼料用とうもろこし	草丈(cm) 葉数(葉)	352.6 19.3	291.1 17.9	+8		生育は平年より早く進んでいる

●牛の暑熱対策

昨年同様、高温で推移しているため、暑熱対策を心がけましょう。

- ①扇風機の角度や強度を調節し、直接牛体に風を当てましょう。
- ②窓の開放（取り外し）などにより十分な送風を確保しましょう。
- ③飼料の多回数給与により飲水意欲を高め、新鮮な水を十分飲めるようにしましょう。
- ④カリウムやナトリウム、マグネシウムなどのミネラルを補給しましょう。

●飼料用とうもろこしの収穫に向けて

今年のサイレージ用とうもろこしは、昨年同様生育が非常に早く、平年より8日前後、進んでいます。刈り取り適期は黄熟期です。今後の気温推移によりますが、刈取適期は概ね8月31日～9月8日頃になりそうです。熟期を確認し適期に収穫作業を行うようにしましょう。